会議記録

附属機関の名称	熊谷市自治基本条例審議会
開催日時	平成２７年１月３０日（金）９時３０分から１１時２０分まで
開催場所	熊谷市役所３０３会議室
出席者	【委員】計６名 山口雅功会長、依田悦代副会長、出浦尚明委員、小谷野操男委員、 上村悦子委員、安藤君子委員 【事務局】企画課職員計４名 小泉総合政策部長、持田課長、島﨑主査、森主査 富岡市長 計１１名
傍聴人	０人
問い合わせ先 （所管課）	総合政策部企画課（市役所本庁舎３階） 電話　０４８－５２４－１１１１（内線２１５）
内容	**１　開　会** ⑴　熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、会議の概要を公開することの承認 ⑵　会議資料の確認 **２　委嘱状の交付** **３　市長あいさつ** **４　委員の紹介** **５　会長、副会長の選出（会長、副会長あいさつ）** **６　議　事** 熊谷市自治基本条例審議会条例第６条第１項の規定に基づき、山口会長が議長となり進行 **⑴　自治基本条例の推進状況について** （資料：自治基本条例推進状況検討資料） 事務局から資料について説明 **⑵　その他** ①　行政評価について （委員）行政評価について、事業の休止、廃止の項目はないのか？

	（事務局）実質の廃止や休止も完了で計上している。 ②　自治会活動について （委員）地元の自治会がH26.3.31 で解散になった。自治会存続のため、半年以上前から各戸を回り説得したが、解散となってしまった。しかも、市民活動推進課に同行をお願いしたものの断られた経緯がある。現在は、広報は自分の班分は（委員が）配り、衛生委員は他の人が引き受けてくれたので、表面上は変化のないことになっているが、残念で、今後が不安である。このようなことから日々の生活の中で協働について考えている。職員も、よく自覚し、地域の中に散らばって地域の中を見てほしい。 （委員）自治会活動については、妻沼は加入率が高く、まとまっているような感じがあり、うらやましい。市民活動イベントの手伝いなど、大変だけどつながりが強くなる。自治会活動は高齢者が多いので、若い人が参画できるような仕向け方が大事だと感じている。市民活動は賑やかになってきているが、自治会は衰退しているように感じている。 （委員）審議会の委員に自治会活動を長くやっている人を入れてみてはどうか。 （事務局）高齢の単身世帯が増加するにしたがって、役員が回ってくる前に抜けるケースが出てきている。旧町は区長制度である程度権限をもっていたが、旧市は自治会で権限はない。自治会加入の意義やメリット（ごみ集積場の利用、広報、防犯灯、道路整備等の要望など）が感じにくくなっていることが背景にあるのではないか。行政サービスは自治会に加入していないからサービスを受けられない性格のものではないので、流出に歯止めが利かなくなっている。新しいコミュニティの形として、校区連絡会があり、これは将来展望を持ち計画を立てて事業を実施するものに対し、市が一定の助成するものである。子どもや地域と一緒に、多世代交流で防災訓練を実施した例もある。また、自治会活動、地域活動への職員の参加については、市長も何度となく声かけしている。少しずつでも変えていきたい。 ③　自治会への経済支援について （委員）元気で時間のある後期高齢者にお金が回っているように感じる。単身で自宅に引きこもるような人、障害者にお金が回るしくみを作ってほしい。市報の配布に 1 戸あたり 800 円もの税金が使われている事実を市民は分かっていない。メール便の方が安価であろうが、配布することで見守りの意義もあると思う。 （委員）自治会には老害があって、説明しても変わらない、変えられない。50 代くらいの人が中心になると良い。また、会計が不明朗で、改善を求めたこともある。 （委員）自治会の中で市役所に相談したいことができても、市役所のどこ

	に行けばよいかが分からない。地域に住む市役所職員に自治会の会議に参加してもらって、そういった面で知恵を貸してほしい。 （委員）市の職員や、元市の職員といった方が、地域のイベントを手伝ってくれると、普通の人の 2～3 倍うれしく、心強く、頼もしく感じている。 ④　自治会の意義について （委員）団塊の世代が 65 歳以上になると、熊谷は市民の 25%が高齢者となる。高齢化が進むといざというときの共助のためには、基礎となる自治会が大事である。必要性、有用性が実感できる場を作る、機会を作る、楽しい思いを共有するなどの経験から、困ったことを解決していきたい。 ⑤　校区連絡会について （委員）校区連絡会というのは、自治体の活動が移行できるような制度なのか？ （事務局）校区連絡会は、財産を持ち、学校区を単位として、地域の自治会、子供会、敬老会、ＰＴＡ、健全育成会などが参加し、それぞれの地区で自主的に運営しているものである。自治会の内容を全部預けてしまうのもどうかと思うが、できなくはない。規模が大きいので使い分けは必要になると思う。それぞれの団体の多層性、関連性が出てくればもっと良いと思う。 （委員）硬いこと言わずに、一緒にやれば良い。子どもの時に地域の人と楽しむ経験がないと、自治会に入らないという大人が増えてくるのではないか。地域、地域に小さな集まりができ、活性化してほしい。自分たちのやりたいことをやるには、責任が伴うという自覚も大切である。 ⑥　自治会について （委員）自分のところの自治会は、約 120 世帯あり、転入してくる人が多いため、サラリーマンや比較的若い人も多い。飲み会やゴルフなどもやっているように聞く。一方で、もともとの地元の方ばかりの班で消滅しそうなところがあるとも聞いた。また、自治会長には苦情ばかり集まるようで、大変だとの話もある。名簿ひとつにも個人情報などといわれては、いざというときにどうするのか。それから、自治会の私物化などもあるようだ。市のほうで、新任自治会長研修などを実施して、自治会は自分のものではないことを認識させてもらいたい。 （委員）いろいろな意見をうまく考慮して、自治会活動ができればよい。自治会活動の状況など、自治会単位でアンケートするのも面白いと思う。毎年では大変なので、10 年に一度など。 ⑦　市民活動について （委員）この場を借りて、市民活動団体ががんばっている紹介をさせても

	らいたい。順調に団体の登録数が増えており、賑やかになっている。今日配っていただいた新聞記事にもあるように、団体や地域の専門家（法律や料理など様々な特技や知識）を繋ぐマッチング事業を行い、相乗効果が生まれている。日々の生活の中で、なんとなく感じている問題を一緒に考える、いろいろな知恵が集まって何か生まれるかもしれない、そういった場になっている。 ⑧　コミュニティ広場について （委員）コミュニティ広場の進捗状況はどうか？ （事務局）市にとって中心部の大きな土地であり、県市共同で事業化を進めているところである。浦和の県立図書館が今年度末で閉館し、老朽化した県立熊谷図書館も含め統合する計画である。 ⑨　その他 （委員）自分の住まいは柿沼だが、地域に少し様子のおかしな人がいて、学校も近いため心配している。こうした人のために自分は何ができるかと考えてしまう。 （事務局）地域の中でこのようなケースは、自傷他害といったような行為が明らかでないと、入院などの法的な強制力は発動できない。地域の中で理解者がいれば、うまく生活できるケースもある。ただし、本当に困ったときには警察への通報や、県の保健所や市の保健センターと連携をとることもできる。現実の問題として、記録をとっておくことが大事。民生委員にまずは相談すること。民生委員を手がかりとして医療や行政などとつながっていくことが大事。 （委員）排除しない社会のことを、ソーシャル・インクルージョンという。福祉や医療に繋げていければ良い。 ⑩　条例の改正について （委員）条例を作ったが、10年くらいで文言の再検討なども必要ではないか。今の時代にそぐわなくなっているものもあるかもしれない。今の人がどう考えるかを聞いて、準備段階を経て、10年の区切りでリニューアルできたら良い。 **４　閉　会**

※　この会議記録は、熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱第１０条に規定する様式第２号により、作成しています。